

第九課

収穫の主に祈りなさい

祈りは働き手を起す

「そのとき、弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主
に、収穫のために働き手を送ってくださいるように祈りなさい。』」

(マタイ九・三七、三八)

主は、弟子たちに、祈るべきことと、いかに祈るべきかということをしばしば教えられました
が、何を祈ったらいいかということについては、あまり教えられませんでした。主は、これを、
弟子たちの必要感と、聖霊の導きにおゆだねになりました。しかし、ここで、一つのことを心に
とめておくようにとお命じになっています。それは、多くの収穫と刈入れ人の不足を見た弟子た
ちが、収穫の主に働き手を送ってくださいるように叫ばなければならないということです。主は、
真夜中の友人のたとえと同じように、祈りは自己中心的であってはならないことを、弟子たちに
理解させようと言いました。ここには、他の人に祝福をもたらす力があります。御父は収穫の主

です。私たちは、御霊を求めて祈る時、みわざのための働き人が整えられて送られることを求めなければなりません。

ある意味で、主がこのことを弟子たちに求めるのは、奇妙なことにように思えます。主は御自身で祈ることができなかったのでしょうか。主の一回の祈りは、弟子たちの千回の祈りより効果があるのではないのでしょうか。収穫の主である神は、その必要を御存知ではなかったのでしょうか。弟子たちの祈りがなくても、神は、御自身の都合のよい時に働き手を送ることをなさらなかったのでしょうか。このような疑問は、祈りの深い奥義と、神の国における祈りの力へと私たちを導きます。この疑問に対する答は、祈りこそ力であることを私たちに確信させてくれるものです。収穫を集めることと、御国が到来することは、本当の意味で、この力にかかっているのです。

祈りは形式でも外観でもありません。主イエス御自身が真理であられ、そのお語りになったことはすべて深い真理です。主が弟子たちに、働き手を送ってくださるように祈れとお命じになったのは、群衆を見て、羊飼いのいい羊のように弱り果てて倒れている彼らをかかわいそうに思われた時です（三六節）。主がこれをお命じになったのは、弟子たちの祈りが必要であり、役に立つと、本当に信じておられたからでした。見えない世界を私たちの目から隠してしまうベールは、イエスの聖なる人性にとっては、見通し可能なものだったのです。イエスは、霊の世界の隠れた

因果關係を、長く、深く、遠く觀察されていました。神が、アブラハム、モーセ、ヨシエア、サムエル、ダニエルといった人物を召し、御名によって人々の上に立つ權威を与え、必要な時には天からの力を求める權威と權利を与えられたことについて、イエスは神のみことばの中に認めておられました。イエスは、昔の人々や、御自身に、しばらくの間、この地上における神のみわががゆだねられていることを御存知でした。そこで今、弟子たちにそれをゆだねようとしていているのです。このみわがが弟子たちにゆだねられる場合、それが、単なる形式や外觀のことではなく、そのみわがの成否が、彼らが忠実であるかどうかにかかっていることを知っておられました。イエスは、一個の人間として肉体や生活に制約された短い御在世の中で、周囲の迷える羊にほとんど何もしてやれないと感ぜられ、弟子たちが、適切に迷える羊のめんどろを見ることを切望されたのでした。そこでイエスは、弟子たちに祈ることをお命じになり、この世でみわがをゆだねられた時には、收穫の主御自身が、收穫のために働き手を送ってくださることを、弟子たちの祈りの主要な願いごとの一つにせよとお教えになったのです。弟子たちにみわがをゆだね、かなりの部分を彼らに任せておいでになる神は、助け手としての働き人を神に求める權威を授け、彼らの祈りに応じてそれがかなえられるようにされました。

色づいている世界の收穫場に働き手が不足していることに気づいて、そのことを心配しているクリスチャンが、あまりにも少ない現状です。働き手の供給が祈りにかかっており、祈りこそ「必

要なだけの働き手」を供給するものだということを信じているクリスチャンがあまりにも少ないのです。働き手の不足を知らないわけでも、検討していないわけでもなく、その不足を補おうとする努力がないわけでもありません。しかし、収穫の主は祈りに答えて働き手を送ってくださるという信仰がなく、またこの祈りなしには、収穫を待っている畑が、むだになってしまふという確固とした信仰もないため、羊飼いのいない迷える羊に対する責任感がほとんど生じていないのです。しかし、事実はそのとおりなのです。主のみわざが主の教会に託されたということは驚くべきことです。主は、教会を御自分の体とし、それに全くゆだね、主のみわざがこの教会を通してのみ行われるようにされました。主が、天と地で人々にお与えになった力は真実です。したがって、働き手の数と収穫の量は、確かに人々の祈りにかかっているのです。

なんとという厳肅な事実でしょうか。なぜ私たちはもっと心から主の御命令に従い、もっと熱心に働き人のために祈らないのでしょうか。それには二つの理由があります。一つは、私たちのうちに、この祈りを求めるイエスの持つておられるようなあわれみの心が欠けているからです。隣人を自分自身のように愛すること、同胞の中にあつて、全く神の栄光のために生きることが御父の第一の戒めであることを学ぶ時、滅び行く人についての主から与えられた責任を引き受けるようになるでしょう。それを引き受けるということは、働きの場としてだけでなく、優しく世話をし、関心を示す対象として受け入れることなのです。そうしていれば、しばらくの間に、望み

なく減びて行く人々に対するあわれみの心が出て来て、それまで知らなかったような熱心さで、「主よ、働き手を送ってください」と叫ぶようになります。主の命令に従わないもう一つの理由は、信仰の不足です。信仰がないわけではありませんが、助けを求める私たちのあわれむべき願いとの方が勝って、信仰が負けてしまうのです。私たちは、明確な答をもらす祈りの力をあまりにも信じていない者です。神に近く歩まず、神への奉仕と神の国への献身が不徹底なので、神が祈りに答えてくださるという確信が持てません。キリストのあわれみが私たちのうちに流れ込み、御霊が、私たちの祈りが答えられる確信を与えてくださるよう、キリストと一つになる生活を祈り求めようではありませんか。

このような祈りは、二重の祝福を祈り求めるもので、それを獲得するものです。第一に、神への奉仕に全く自分をささげ切る人が増えることを求めなければなりません。主のために牧師となり、宣教師となり、みことばの教師になる人を見出せないことほど、キリストの教会にとって恥ずべきことはありません。神の子たちが、このことを自分の団体や教会のための願いとするならば、それは与えられるでしょう。主イエスは、今も収穫の主であられます。主は高く上げられ、賜物すなわち、御霊の賜物を授けてくださいます。最高の賜物は御霊に満たされた人物です。賜物は、かしらと肢体の協力にもとづいて与えられ、分配されます。祈りがそのような協力を導き出すのです。信仰の祈りが起されて初めて、人とみわざのための手段を見出すことができるでし

出すのです。信仰の祈りが起されて初めて、人とみわざのための手段を見出すことができるでしょう。

よう。

もう一つの恵みもそれに劣らないものです。すべての信徒は働き人です。神の子たちの中で、贖われても奉仕にあずからなかったり、みわざを与えられなかったりするような者は一人もいません。私たちの祈りは、主がすべての民を献身の気持に満たしてください、一人としてぶどう園でぼんやり立っている者がいないようにというものでなければなりません。どこでも、助け手の不足や、神のみわざにふさわしい助け手の不足を嘆く声があがるところでは、祈りがその供給を約束します。日曜学校、訪問伝道、聖書講演、救済事業において、神の側に備えがなく、提供すべきものが何もないということはあり得ません。もちろん、時間や忍耐は必要かもしれませんが、収穫の主に求めなさいというキリストの命令は、祈りは聞かれるということの保証なのです。「起き上がって、必要な物を与えるでしょう。」

なんと厳粛で、祝福に満ちたことでしょう。世の必要に応じ、神のみわざのためにしもべたちを確保する力が祈りのうちに与えられています。収穫の主は聞いてくださいます。特に、この祈りのために私たちを召してくださったキリストは、キリストの御名と栄光のためにささげられた祈りを支えてくださるのです。時間を取って、とりなしの祈りの任務に献身しましょう。それによって、私たちに祈りを求められる主のあわれみ深い心にあずかることができます。とりなしの祈りは、私たちを導いて、自らの王としての立場、すなわち、私たちの意志が神の国の前進

に何らかのかたちで反映するという立場を見抜く力を与えてくれます。とりなしの祈りは、私たちがこの世において神とともに働く者であることをはっきりと感じさせてくれるものです。私たちは、信頼されて、みわざにあずかる者とされています。とりなしの祈りは、たましいのために骨を折ることにあずからせてくれるだけでなく、イエスから、たましいの満足も与えられます。私たちは、祈りの答として、他の方法では得られない祝福を与えられるからです。

恵み深い主よ。あなたは、きょうもあなたのすばらしい教訓を与えてくださいました。私たちが、へりくだってあなたに求めます。あなたがお語りになった霊的眞実を正しく見る目をお与えください。大きな刈入れがありますが、眠っている弟子たちが働き手を求める合図を発することを待っている間に、むだになってしまいうです。あわれみ深い心で、この眞実を直視することを教えてください。働き手がほとんどいません。主よ。祈りと信仰の不足がどんなに恐るべき罪であるかをお示しください。その罪がこの眞実を証明しています。いつでも働き手を送ることがおできになる収穫の主がおられます。主よ。その主が祈りを待っておられることを教えてください。主は、祈りによって答えてくださるからです。祈れという命令は、すでに弟子たちに与えられています。主よ。あなたは弟子たちに御霊を注ぎ、息を吹きかけることのできるお方です。そ

い。主は、祈りによつて答えてくださるからです。祈れという命令は、すべし、必ず、
られています。主よ。あなたは弟子たちに御霊を注ぎ、息を吹きかけることのできるお方です。そ

れは、あわれみ深い心と、あなたの約束を信じる信仰が弟子たちを奮い立たせて、絶えず勝ち抜
く祈りをささげるようになるためです。

ああ、主よ。どうしてあなたは、このように怠惰で不忠実な者にそのような働きを任せ、力を
与えようとされるのか、私には理解できません。あなたから教えられて、日夜働き手を送ってく
ださるよう叫び求めるようにされていることを感謝します。主よ。あなた御自身の御霊をあなた
の子らの上に吹きかけてください。そうすれば、主の御国と栄光のためにのみ生きるようにな
り、自分の祈りが何を達成できるかについての信仰に完全に目覚めるようになるのです。主よ。
あらゆる願いごとの場合と同じように、このことにおいても、生ける神を愛する信仰によつてさ
さげられた祈りは、確實でしかも豊かな答をもたらすということを、私たちの心に確信させてく
ださい。アーメン。